

～教育課程拠点校事業研究発表会
お疲れさまでした～

研究発表会の授業より

11月1日に行われた研究発表会では、3本の提案授業を公開しました。今回は2年生の授業の本時までをまとめたものと研究協議の記録を紹介します。

単元名「昔話大すき玉手箱」～お気に入りの昔話を紹介し合おう～

教材名「かさこじぞう」全11時間 2年1組 森田 幸子教諭

単元の目標：

- 関友だちに紹介するために、昔話のおもしろさを見つけながら読もうとしている。
- 読昔話を読んで、お気に入りの昔話のおもしろさを「昔話おすすめカード」にまとめ、紹介することができる。
- 様々な昔話の中から、読みたい本を選んで、楽しんで読むことができる。
- 言昔話の特有の語り口や表現に気付き、親しみを感じることができる。

学習の流れ

第1次

1時間目



図書担当の先生に昔話の読み聞かせをしてもらい、「もっと昔話を全校のみんなに読んでもらいたいのだけれど2年生が昔話のおもしろさを伝えてくれませんか？」とお願いがあり、目的意識を持って学習がスタート

2時間目

「かさこじぞう」のおもしろいところを発表し合いそれを分類する中で、3つの観点に気付かせました。そして、①言い方や言葉のおもしろさ②人物のおもしろさ③人物がどうなったのかこれからの学習では3つの観点でおもしろさを見つ

第2次

3～8時間目

昔話のおもしろさを見つける3観点に沿って、「かさこじぞう」(習熟の場)→並行読書の本(活用の場)という流れで学習を進めました。それぞれの観点別に「昔話おすすめカード」の色分けをしています。できたものを順次「昔話玉手箱」と名



昔話大すき玉手箱の様子

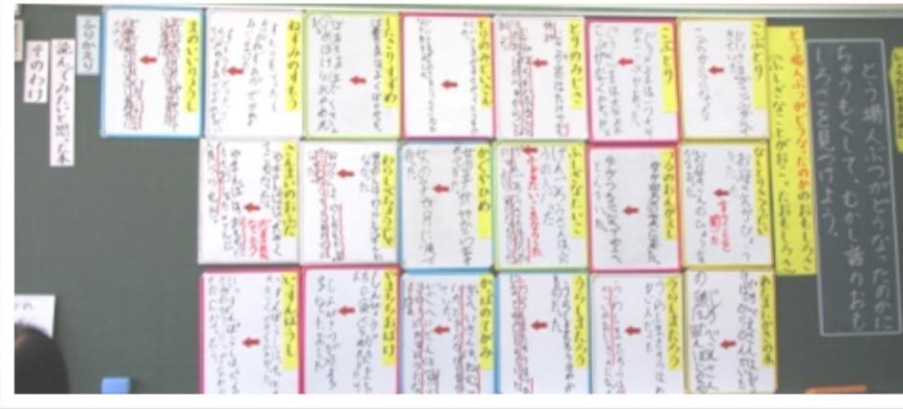


お部屋の中が昔話の世界になっていま



主体的な学びへと導くための子どもの「やってみたい！」を引き出す手立ての

8/11 時間目(本時)の板書



本時はまずめあてをつかんだ後、予習してきたことをもとに自分のお気に入りの昔話の「始め」と「さいご」をホワイトボードに各自が書き、全員ものを黒板に掲示しました。登場人物がなぜそうなったのかそのわけをおすすめカードに書き、友だちと伝え合うことで対話的な学びの実現を目指しました。そして、黒板に掲示したボードを見て聞いてみたいことを質問したり、おもしろさを共有したりすることを通して、もっと昔話を読んでみたいという主体的な学びへと向かっていきました。子ども達はおすすめの昔話の本をめくりながら

研究協議の記録より

- ◆育成すべき「資質・能力」を付けるために最適な言語活動であるか。
 - 単元全体そして1時間1時間の授業で何のために学習するのが明確になっている。
 - おすすめカードに書いて紹介するという言語活動がよかった。
 - △学年間の読書を通じた交流・学び合いはあるのか？→単元のゴールでは昔話玉手箱のお部屋で「昔話大すきカード」を読んだり感想を書いたりして交流を図る計画である。
- ◆本時の目標が達成できたか。
 - 本時の目標の「おもしろさを見つける」ための手立てとして家庭学習や前時の振り返りがあったので、達成していたと思う。
 - めあて通りできていた。読書をしたいという気持ちが育ち、おもしろさが分かると思う。
 - ホワイトボードに書くことで、展開のおもしろさについて一気に見ることができた。
 - ▼振り返りをもっとたくさん紹介したらよかったのでは？→本を指しながら紹介したかった。
 - ▼めあてに対しての振り返りがあればよかった。
 - △並行読書の目標は？→児童が進んで読めるようにカードを作って意欲化を図っているが、義務にはしていない。
- ◆「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」は実現していたか。
 - 授業だけで終わっていない。お家の人に伝えるという予習がgood→アウトプットできる。また、その分話し合いの時間が授業で長くとれる。
 - 自分がお勧めしたい本の始めとさいごのところ付箋を貼るという手立てがよかった。スムーズに進めることができた。
 - 自分の生活を振り返ることで、昔話と自分の生活を繋げて考えることができた。
 - 児童の生活と結び付けた声かけでお話に興味を持ち、考え続けていた。また、物語のおもしろさを実感できていた。
 - ペア対話できていた。紀要p.2-14にある「問い返し」ができていた。
 - 何のためにこの学習をするのか、何のために本時をするのかが児童にも分かっていた。
 - ▼発表立ち位置を決めてあげると、先生との対話ではなく子ども同士の対話になるのではないか。
 - ▼発表する時に「本の題名言ってね」と言ったが、言えていない子どもがいたり、発表する子が限られていたりしていた。
 - ▼ペアの時、ワークシート(昔話おすすめカード)ではすらすら読めていたのに、本を指しながらになったら言えなくなっていた。
- ◆「言葉による見方・考え方」を働かせた児童の姿は見られたか。
 - 物語の変化に着目して、理由を短く書けていた。
 - 振り返りのポイントが絞られている。
 - 話型があり、それに沿って伝え合うことができていた。さらに、自分の言葉で説明できている子も。
 - 読みとる力がついている。
 - ワークシートを書く時に、「なんで最後にこうなったのかのわけを書きます」の発問がよかった。
 - △わけを伝えることが苦手の児童はあらずしをすらすら伝えていたがどういった手立てが必要だったか？
 - 本を指しながら説明させたので、まとめて言うのが難しかったのだと思う。あらずしを語るということは展開がつかめていないととらえている。

7/11 時間目の板書

発表会の前時の授業が「見て見て授業」でした。はじめとさいごを比べて、登場人物がどうなったのかに注目しておもしろさを見つけました。この力を次時の授業で活

